

3 火災の総括

① 発生状況及び出火率

令和6年中(令和6年1月1日～令和6年12月31日)における火災件数は51件で、前年から14件増加している。前年比の内訳は、建物火災が16件増加、林野火災は横ばい、車両火災が3件減少、その他火災が1件増加した。

出火件数を火災種別で見ると、建物火災が35件(68. 6%)と最も多く、次いで車両火災が6件(11. 7%)、林野火災が1件(1. 9%)その他火災(建物、車両、林野火災に該当しないもの)が9件(17. 6%)、となっている。

出火件数を月別に見ると、6月が最も多く8件、次いで8・9・10月が6件、3月・5月が5件、7月・12月が4件、1月・11月が3件、4月が1件、2月は0となっている。

建物火災の用途別では、専用住宅が9件(25. 7%)、共同住宅が4件(11. 4%)、店舗が6件(17. 1%)、工場・作業場が7件(20. 0%)、事務所が5件(14. 2%)、その他が4件(11. 4%)となっている。

出火率(人口1万人当たりの出火件数)は2. 5件で、前年から0. 7件増加している。この数値は、前年(令和5年中)の全国平均出火率3. 1件より1. 1件少ない数値である。

② 死傷者

火災による死者は3人(前年0)で、負傷者は4人(前年1人)である。

③ 焼損状況及び損害額

焼損棟数は51棟で、前年の18棟より33棟増加し、火元建物の焼損床面積は646㎡で、前年の84㎡より562㎡増加している。

火災による損害額は173, 813千円で、前年の41, 102千円より、132, 711千円増加している。

④ 出火原因

出火原因で最も多かったのが電気機器が6件である。次いで、こんろ及び放火が5件であり、たばこが4件となっている。

◆令和5年火災総括表

総火災件数		51 件
火災種別	建物	35 件
	林野	1 件
	車両	6 件
	その他	9 件
焼損棟数		51 棟
り災世帯		20 世帯
り災人員		41 人
建物焼損床面積(火元)		646.0 m ²
" (類焼)		68.0 m ²
建物焼損表面積(火元)		24.0 m ²
" (類焼)		32.0 m ²
林野焼損面積		0.0 アール
死者		3 人
負傷者		4 人
総損害額		173,813 千円
内訳	建物	167,072 千円
	林野	0 千円
	車両	6,691 千円
	その他	50 千円

◆各種別平均

件数	
1か月当り	4.3 件
1日当り	0.14 件
損害額	
1件当り	3,408.1 千円
1か月当り	14,484.4 千円
1日当り	476.2 千円
1時間当り	19.8 千円
1分当り	0.3 千円
焼損床面積(建物火災・火元)	
1件当り	18.5 m ²
1か月当り	53.8 m ²
1日当り	1.8 m ²

出火率 (人口1万人当り)

2.5 件

※建物火災19件のうち1件は爆発現象によるものであるため焼損棟数及び焼損程度には含まれない。

◆出火原因順位

順位	出火原因	件数
1位	電気機器	6件
2位	こんろ	5件
	放火	
4位	たばこ	4件

※出火原因順位にその他及び不明は含まれない。